

愛知県西三河農林水産事務所 農業改良普及課 (西三河農業普及指導センター) の1日

普及指導センターの業務について、ある1日の普及指導員数名の活動をもとにご紹介します。



普及指導センター内では、土壌分析、調査研究、管内農家への情報提供等の業務を行っています。

17:15 ~資料整理~



普及指導センターに戻り、業務の報告等を作成。時には、センターでの仕事の後、集落座談会を開き、地域の農家の方々と意見交換を行っています。

15:30

~巡回指導~



管内の梨生産者を巡回指導。高温障害への対応や新品種育成についての相談を受けています。



産地の未来を担う若手農業者の育成は特に重要です。

13:30 ~講習会の開催~



関係機関（JA）と連携し、キュウリ生産部会を対象に栽培講習会を開催。

普及指導員の活動紹介



8:45 ~朝礼~



職員の当日の業務を確認します。巡回指導、関係機関との打ち合わせ、現地実証試験等で、日中はほとんどの職員が外に出ています。

9:30

~巡回指導~



管内のキュウリ生産者を巡回指導。育苗の（栽培）管理状況を確認し、病害虫防除のアドバイスをを行いました。

CONTENTS

● 普及指導センターの1日

● 主な活動事例

担い手・経営体育成

ブランド化・産地支援

環境と調和した農業生産の推進

食の安全・消費者の信頼確保

地域の活性化

輸出促進

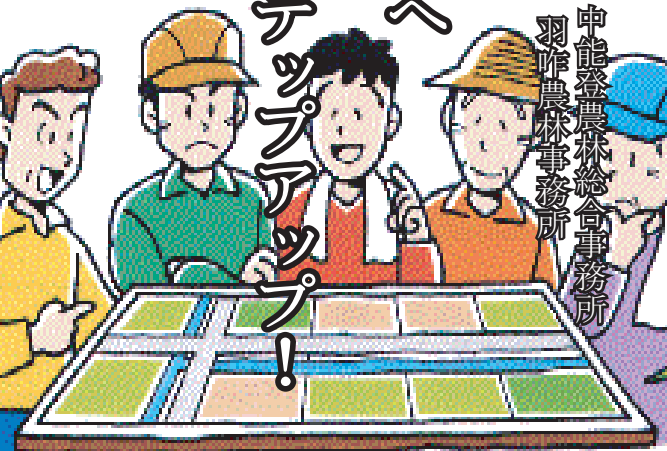
1

法人化へ

ステップアップ!

石川県

中能登農林総合事務所
羽咋農林事務所



ステップアップ方式による 集落営農の育成・強化

集落営農の発展段階に応じた、
きめ細かな指導を実施！

集落営農の法人化は、地域農業の活性化を図るための重要な取組です。

普及指導員は、集落営農の発展段階に応じ、ビジネスツールなどを活用した効果的な研修を開催するとともに、関係機関と連携したきめ細かなステップアップ指導を行いました。

活動内容 普及指導員によるステップに応じた指導

普及組織や専門家※による
特定農業法人化に向けた指導

普及組織や専門家※による
法人化に向けた指導

※税理士、公認会計士など

普及組織による
リーダー育成・リーダー研修会で
集落ビジョンの作成を演習

普及組織や関係機関(市町、JA)による
意識づけ(広報・座談会)

ステップ6：特定農業法人

ステップ5：農業法人

ステップ4：プレ農業法人

ステップ3：集落経営体

ステップ2：プレ集落経営体

ステップ1：集落営農の芽生え

ステップ0：集落営農への
意識がない

STEP UP!!!

成果 集落営農組織数が約4倍に！



集落座談会

～集落営農組織数～

4組織 (H15)

14組織 (H18)

～法人数～

3組織 (H15)

6組織 (H18)



集落リーダー研修会

肉用牛産地をリードする 大規模経営体の育成

先進技術にチャレンジする青年農業者をモデルに 地域全体を底上げ

曾於地域では、肉用牛の飼養戸数や頭数が急激に減少し、大規模経営体の育成による肉用牛農家の経営体質強化が最重要課題となっていました。

普及指導員は、先進技術に果敢にチャレンジする青年農業者に着目し、モデル経営体としての長期的な支援を通じて、革新的技術を開発し、地域全体への普及に結びつけました。



活動内容 長期ビジョンに基づく一貫した支援

経営規模拡大につながる革新技術を実現

- ① 1人の青年農業者をモデル経営体として長期的に支援し、規模拡大を可能にする革新的技術を開発

- ② 試験場や専門技術員と連携した畜産課題解決プロジェクトチームを編成し、技術実証や解決方を検討

実証展示や研修会を通じ、地域の農家に広く技術を普及

- ③ 地域では、県関係機関と町、農協、共済組合等で構成される地域肉用牛振興協議会で課題解決チームの実証内容や振興方を検討・調整し、実証展示や研修会を通じ農家へ波及

アイデアと最小限の投資により、低コスト大規模経営と高品質子牛生産を実現



省力化技術として注目される「パドック型採光性牛舎」

規模拡大手法を革新技術として広く地域に波及

成果

大規模経営体の育成(3倍増!)と地域飼養頭数の増加

✓ 大規模経営体の育成 (モデル経営体育成事例)

- 生産牛飼養頭数 35頭 (H1) → 210頭 (H17) → 6倍!!
- 飼料作付面積 2ha (H1) → 10ha (H17) → 5倍!!
- 地域リーダーへの育成 (指導農業士)

✓ 地域への波及効果

- 人工哺育技術、パドック型採光性牛舎 (194戸: H17) の革新的技術等の地域への波及
- 大規模経営体の増加 (50頭以上の農家数: 20戸未満 (H7) → 62戸 (H17) → 3倍!!)



人工哺育

3

みやざきブランド
マンゴー!

宮崎県 西諸県農業改良普及センター

みやざきの果樹 “完熟マンゴー”の産地づくり

メロンからマンゴーへの大転換

野尻町はアールスメロンの産地でしたが、価格の低迷などの課題を抱えていました。

普及指導員は、食味や香りが優れ、価格も安定しているマンゴーに着目し、関係機関と連携して、南国宮崎を代表する新たな特産物に育て上げました。

活動内容 町役場・JAと連携し^{*}、栽培技術指導、加工品の開発・商品化を支援

- ① 栽培暦や栽培支援資料を作成し、**早期成園化と開花・収穫時期の調節方法を指導**
- ② 各農家毎の**植え付け指導、栽培温室の設計、苗の供給などを支援**
- ③ 県内外の**先進産地や市場視察**を実施
- ④ マンゴーの**ピューレ製造方法の指導**を行い、一次加工品を出荷するとともに、ピューレを原料にアイスクリームやケーキなどの**加工品を開発・商品化**

※連携体制

- ・町役場：産地全体の振興計画作成と補助事業の導入
- ・農協：栽培者の人選と補助事業の実施主体、販売を担当
- ・普及センター：①県内普及組織・試験場などから技術情報の収集
②栽培技術や病害虫管理の農家への指導
③産地全体のコーディネート及び関係機関との連携、調整



現地指導の様子

成果 生産額3億円! …産地形成と地域の活性化!!

- ✓ 栽培に取り組んで9年目に生産額が3億円
- ✓ 平成17年度に『みやざきブランド』品目の認証を取得
- ✓ マンゴー専用選果場の建設や果実選果機を設置し、出荷規格の統一や販売先への信用度が向上
- ✓ 加工品の開発・商品化
新規栽培希望者の増加 } **産地形成と地域の活性化**

～マンゴー生産の推移と実績～

	11年	13年	15年	17年	19年
栽培面積 (a)	42	150	346	480	750
栽培戸数 (戸)	3	13	18	21	26
生産量 (t)	—	6.5	25.2	64.7	75
生産額 (万円)	—	1,500	4,700	19,980	29,200

植え付け当初



植え付け3年後(収穫直前)

